

三木清著「読書と人生」新潮文庫、新潮社 1974年10月30日刊を読む

如何に読書すべきか

1. (1) 先ず大切なことは読書の習慣を作ることである。
(2) 他の場合と同じように、ここでも習慣が必要である。
(3) ひと、単に義務からのみ、或いは単に興味からのみ、読書し得るものではない。
(4) 習慣が実に多くのことを為すのである。
(5) そして他のことについてと同じように、読書の習慣も早くから養わねばならぬ。
(6) 学生の時代に読書の習慣を作らなかった者は恐らく生涯読書の面白さを理解しないで終るのであろう。

2. (1) 読書の習慣を養うには、閑暇を見出すことに努めなければならぬ。
(2) そして人生において閑暇は見出そうとさえすれば何処にでもあるものだ。
(3) 朝出掛ける前の半時間、夜眠る前の一時間、読書のための時間を作ろうと思えば何時でもできる。
(4) 現代の生活はたしかに忙しくなっている。
(5) 終日妨げられないで読書することのできた昔の人は羨望に値するであろう。
(6) しかし如何に忙しい人も自分の好きなことのためには閑暇を作ることを知っている。
(7) 読書の時間がないと云うのは読書しないための口実に過ぎない。
(8) まして学生は世の中へ出た者に比して遥かに多くの閑暇をもっている筈だ。
(9) そのうえ読書は他の娯楽のように相手を要しないのである。
(10) ひと、ひとりて読書の楽しみを味わうことができる。
(11) いな、東西古今のあらゆるすぐれた人に接することができるというのは読書における大きな悦びでなければならぬ。
(12) 読書の時間を作るために、無駄に忙しくなっている生活を整理することができたならば、人生はそれだけ豊富になるであろう。
(13) 読書は心に落ち着きを与える。
(14) そのことだけから考えても、落ち着きを失っている現代の生活にとって読書の有する意義は大きいであろう。

3. (1) 読書を欲する者は閑暇を見出すことに賢明でなければならぬと共に、規則的に読書するというのを忘れてはならない。
(2) 毎日、例外なしに、一定の時間に、たとい三十分にしても、読書する習慣を養うことが大切である。
(3) かようにして二十年間も継続することができれば、そのうちにひと、立派な学者になって

いるであろう。

(4)読書の習慣は読書のための閑暇を作り出す。

(5)読書の時間がないと云う者は読書の習慣を有しないことを示している。

(6)読書の習慣を得た者は読書のうちに全く特別の楽しみを見出すであろうし、その楽しみが彼を読書から離さないであろう。

4. (1)他の場合においてと同様、読書にも勇気が必要である。

(2)ひとは先ず始めなければならぬ。

(3)我々はつねに読書に好都合な状態にあるのではない。

(4)読書に好都合な状態ができてから読書しようとするならば、遂に読書しないで終るであろう。

(5)ひとたび読書し始めるならば、落着かない心も落着き、憂いも忘れられ、不運も心にかかることなく、すべて読書に好都合な状態が生ずるであろう。

(6)いやいやながら始めて、やがて面白くなってやめられなくなる場合が多い。

(7)先ず読書することから読書に適した気分が出てくる。

(8)ひとたび読書の習慣を得れば、習慣があらゆる情念を鎮めてくれる。

(9)落着いた大学生といわれる者はたいてい読書の習慣を有するものである。

P95 ~ 97

<コメント>

三木清先生の読書論。

(1)「先ず大切なことは読書の習慣を作ること」

(2)「読書の習慣を養うには閑暇(ひま)を見出すこと」

(3)「そして人生において閑暇(ひま)は見出そうと思えば何処(どこ)にでもあるもの」

(4)「出掛ける前の半時間」、「夜眠る前の1時間」、「読書のための時間を作ろうと思えば何時(いつ)でもできる」

誠にその通り、一言もない。

2022年3月3日 林明夫記